

# 富永直樹さんのブロンズ彫刻を受贈

市は、令和3年9月、彫刻家の故富永直樹さん（1913〜2006年）が制作したブロンズ彫刻を寄贈していただきました。

これは、（公財）成羽町美術振興財団・児嶋塊太郎理事長の仲立ちにより、兵庫県の大洋精機（株）代表取締役の高橋淳さんから個人・法人の所有するコレクションの寄贈を受けたものです。



高橋淳さん(左から3人目)／中央の作品《クリスマスイヴ》

富永直樹さんは、日展を主な舞

台として作品を発表し、戦後の日本彫刻界を牽引した作家の一人です。日本芸術院会員、日展理事長などを歴任し、多くの人材を育成するとともに、晩年には文化勲章を受章。名実ともに日本を代表する彫刻家として長きにわたり活躍しました。

富永さんの生涯の作品を通覧するとき、そのテーマやモチーフ、スタイルは多彩に変化していきませんが、その多くが着衣像であることは一つの特徴と言えるでしょう。作者が好んだ異国の装飾的なコスチュームは造形に多様な広が



《クスコの少女》

☎ 社会教育課 21・1516



《天地への賛歌》

りを生み、裸婦像が主流であった日展の彫刻部門において新境地を切り開きました。

この度の寄贈作品は、いずれも1970年代後半以降の作者の円熟期に制作されたもので、一点一点に高い技量が発揮されています。堅実な写真の中に優しさを込めた穏健な作風は、多くの皆さんに親しみを持って鑑賞していただけるのではないのでしょうか。

市は、寄贈作品全12点を紹介する「受贈記念 富永直樹展」を成羽美術館で10月に開催し、市内外から多くの人が来館しました。  
なお、寄贈を受けたブロンズ彫刻は、今後、市内の文化施設などに常設で展示することを検討しています。

「受贈記念 富永直樹展」会場風景

